

共に奏でる仲間になってください

映画制作資金への協賛のお願い

龍村 仁監督作品

地球交響曲

ガイアシンフォニー

GAIA SYMPHONY No.9

—第九番—



魂の友へ、

地球交響曲 第九番 コンセプト

太陽系第3惑星「地球」は、それ自体がひとつの巨大な「生命体」であり、私達人類はもちろんのこと、動物も植物も、虫もバクテリアも、海も山も、岩や風も、全ての存在が互いに繋がり、互いに影響し合って40億年という歳月を生き続けてきた。この、人智を遥かに超えた超高度な「生命システム」のことを「ガイア理論」と名付け、1984年に発表したのがイギリスの生物物理学者J・ラブロックだった。ちなみに「ガイア」とは、ギリシャ神話の「地球の女神」の名である。「ガイア理論」の事を初めて知った時、私はそれ迄「神話」に依ってしか語り得ないと思っていた「生命(いのち)の不思議」や「宇宙の神秘」が、科学の言葉で語られ始めた事に大きな希望と勇気を与えられた。それが、私が「地球交響曲〜ガイアシンフォニー」を作ろうと決意した動機であった。

ラブロックに初めて会った日、彼は開口一番こう言った。

「西洋社会では、なかなか受け入れられない“ガイア理論”を日本人はどうしてこんなに素直に受け入れてくれるのだろうか？」

私はとっさにこう答えた。

「日本文化の深層、日本人の無意識の自然観の背後には遙か縄文時代から受け継がれて来た“八百万の神(やおよろずのかみ)”という考え方がある。あらゆる自然現象の背後には、それぞれに異なる現象を司る、八百万もの神がいる、という考え方だ。こういう無意識の自然観があったからこそ、私も含め、ほとんどの日本人はあなたの『ガイア理論』を素直に直感的に、『正しい』と受け入れたのだろう。」

「第一番」から「第八番」まで、それぞれの作品には、一見、「超人」のように見える偉業を成し遂げた世界中の人々が4〜5人ずつ登場する。彼らが「異口同音」に言う言葉がある。

「こんな偉業にみえることを成し遂げられたのは、私個人の能力ではない。自分の生命が、人智をはるかに超えた『ガイア』の超高度な『生命システム』に生かされている、と確信した時、“偉業”にみえることが現実になっていたのだ。」

楽聖ベートーヴェンは生涯に9本の「交響曲」を作曲し、交響曲「第九番」を作り終えた後、この世を去った。彼は、この「第九番」で、初めて楽器だけではなく人間の歌声「合唱」を入れた。映画、地球交響曲「第九番」を作り始めるに当たって私の中に「当時すでに聴覚を失っていたベートーヴェンの耳に人間の歌声はどのように響いていたのだろうか？」という想いが渦巻いている。



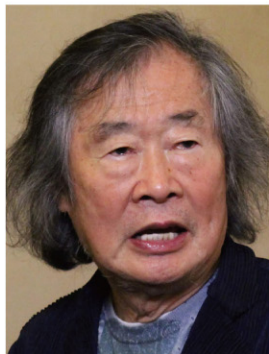
G A I A S



出演者

KOBAYASHI Ken-ichiro 指揮者“コバケン”こと 小林研一郎

「21世紀の今、ベートーヴェンの『第九』を振ってコバケン越える指揮者はいない」という音楽関係者の声をよく聴く。1940年4月、福島県いわき市生まれ。奇しくも私、龍村仁と同年同月生まれである。



私が初めて彼のことを知ったのは1977年、テレビ番組「地球は音楽だ」シリーズの撮影でハンガリーの首都ブダペストを訪れた時のことであった。繁華街をロケハン中、とある楽器店のショーウィンドウに、たたみ2畳分もあろうかと思われる彼の巨大なポートレート写真が飾られているのを見て驚天した。クラシック音楽の指揮者がまるでハリウッドの大スターのように扱われているのではないか。

その頃の私は“コバケン”のことは全く知らず、店の人に尋ねて初めて彼が「日本人」であることが解った。彼は1974年の第1回ブタペスト国際指揮者コンクールで第1位となり、ハンガリー文化勲章を贈られた「英雄」だということだった。

いまも国内外の第一線で指揮者として活躍し、2005年からは社会貢献を目的に「コバケンとその仲間たちオーケストラ」として、活動趣旨に賛同するプロ・アマチュア・学生らボランティアメンバーとともに、日本全国でチャリティ公演を行うなど、その繊細かつ情感豊かな語り口で聴衆を魅了し続けておられる。

2003年地球交響曲第五番の撮影の折には、アーヴィン・ラズロ博士が設立された世界賢人会議「ブダペストクラブ」のメンバーに、ダライ・ラマ法王やジェーン・グドールと並んで「小林研一郎」が加わっていることも知った。

映画「第九番」では、年末恒例の「第九演奏会」を仕上げてゆく彼のプロセスを描きたい。

日本フィルハーモニー交響楽団桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団桂冠指揮者、東京藝術大学名誉教授など。
著書：『指揮者のひとりごと』駒虎書房1993、『小林研一郎とオーケストラに行こう』旬報社2006

Steven MITHEN 認知考古学者 スティーブン・ミズン

私たち日本人は、「ネアンデルタール人」と聞くと、人類(ホモサピエンス)がこの地球に登場する前に絶滅した、類人猿に近い“野蛮人”を思い浮かべる人も多いだろう。



ところが、最近のめざましい考古学の“新発見”によって「ネアンデルタール人」は、私たちと同程度の大きな脳を持ち、発達した喉を持ち、「言葉」ではなく、「歌声」によって互いに高度なコミュニケーションをしていたのではないかと、という学説が生れてきた。ミズン博士は、この学説の提唱者である。

なぜ、私たち人間はこれほどまでに音楽を作り、音楽に耳を傾けずにいられないのか。ミズン博士は、ネアンデルタール人は音のパノラマの世界に住み、大きな脳で、言葉ではない歌でコミュニケーションをしていたのではないかと考えたのだ。

21世紀になり、ヒトゲノムの塩基配列が決定されると、旧人であるネアンデルタール人についてもゲノム配列が決定されるようになり、数パーセントであるものの、私たち現代人にはネアンデルタール人のゲノムが伝えられているという結果が得られたという。そしてわれわれ東ユーラシアの人間の方が、ネアンデルタール人のゲノムを少し多めにもらっているというのだ。さらに面白いことに縄文人のDNAもまた東ユーラシア系に近く、日本人でも特にオキナワ人、アイヌ人に受け継がれているという。

約3万年前、最後の氷河期の頃、ユーラシア大陸にいた狩猟民ネアンデルタール人は、寒さを逃れる為に東へと移動する大型動物を追ってユーラシア大陸の東端まで達し、当時まだ陸続きだったカムチャッカを経て、縄文時代の日本列島に到達したのではないかと。この時の縄文人との出会いこそ、我々に絶滅した旧人のゲノムが残るその始まりなのではないかと。

私は自分の中の遺伝子を通して聴こえてくる「ネアンデルタールの歌声」を聴きたいと思っている。

英国レディング大学初期先史学教授

著書：『歌うネアンデルタール——音楽と言語から見るヒトの進化』早川書房2006、『心の先史時代』青土社1998、『氷河期以後——紀元前二万年からはじまる人類史』青土社2015



HONJO Tasuku 医学博士 本庶 佑

私が初めてインタビューさせていた
だいた80年代初頭、本庶はすでに抗
体の遺伝子に関する研究で、難病解
明に大きく貢献し、世界的な評価を受
けていた。そのときに語ってくれた言
葉は、その後の映画「地球交響曲」の
構想に大きな勇気を与えてくれた。

彼はインタビューのなかで次のよう
に語ってくれた。

「遺伝子の構造、親から子へ伝わってゆく仕組み、生命とい
うのは太古からひとつながりである。我々が今日持っている防
御システムというのは、実は非常に遺伝子の小さな単位を組
み合わせることによって多様な発現系が出来上がる。最初にす
べての可能性を出して、そのあと、いいものを好きなように選
びなさいというシステムである。それから学べることは、一見、
今日、ムダに見えることを、いまムダだからと全部切ってしまう
と将来困ることが起きる。だからムダのなかに将来に対する備
えがちゃんと入っている。

人という種は、たくさんの遺伝子の変形を抱合し多様性がある
から長い進化の過程を生き永らえてきた。もしひとつの遺伝
子系しか持っていなかったら、環境がちょっと変わったらヒト全
体が滅びてしまう。」

すべての生命はひとつながりのものであり、ともに調和しな
がら永遠に生きている。宇宙誕生の瞬間に生まれた素粒子の
ひとつさえ、宇宙の無数の星々の誕生と死に関わりながらいま、
この私のからだのなかにあるかもしれない。地球交響曲の魂
の生みの親といっても過言ではない本庶佑氏に「地球交響曲」
最後の作品となる第九番に出演していただけることに、感謝の
気持ちでいっぱいである。

龍村 仁

京都大学特別教授など。ノーベル生理学・医学賞受賞者。

著書：『ゲノムが語る生命像——現代人のための最新・生命科学入門』講
談社2013、『いのちとは何か——幸福・ゲノム・病』岩波書店2009、『が
ん免疫療法とは何か』岩波書店2019



地球交響曲 第九番 プロジェクト

コバケンとその仲間たちオーケストラによる 「第九」演奏会

ベートヴェンは交響曲の最後にナゼ、
合唱を、人の声をいれざるを得なかったのか——
音楽と映画の叡智が響き合う感動のステージを公開収録。

指揮者／小林研一郎 & 映画監督／龍村 仁

80th Anniversary

炎のジョイントコンサート

2019年 12月25日(水)

開場13:20 / 開演14:00 / 終演16:30

サントリーホール 大ホール

東京都港区赤坂1丁目13-1

東京メトロ南北線・銀座線「溜池山王」駅より徒歩7分

東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅より徒歩5分

全席指定 12,000円

未就学児童の入場不可

演奏中および楽章間のご入場はできません

車いす専用席もございます

盲導犬を連れてご入場いただけます

指揮：小林研一郎

ソプラノ：生野やよい メゾソプラノ：山下牧子

テノール：笛田博昭 バリトン：寺田功治

管弦楽：コバケンとその仲間たちオーケストラ

合唱：コバケンと歌う「第九」合唱団

主催——龍村仁事務所／地球交響曲「第九番」公演実行委員会

今回のこの演奏会は、地球交響曲第九番の公開収録をします。
“第九番”のテーマは「音楽ですよ、第九の音楽そのものですよ」
と龍村監督は語ります。

「ベートヴェンが、交響曲の最後に合唱を、人の声を入れざる
を得なかった心境というのは自分のことのように感じますけど。」

昭和15年4月に生まれた2人の巨匠が織りなす「第九番」演奏
会をどうぞお楽しみください。

チケットは、ホームページまたは電話・FAX・メールにて、お申込下
さい。お支払いの確認が取れましたら、チケットを郵送いたします。

席は先着順で全席指定席となります。全席金額は一律となります。

NY NO.9



地球交響曲 集大成「第九番」製作ご支援のお願い

平成から新しい御代令和への変遷とともに、有限会社龍村仁事務所は20周年を迎えました。

1940年生まれの龍村仁は、2000年4月23日に還暦を迎え、同年5月1日に「地球交響曲」をライフワークにすべく有限会社龍村仁事務所を設立いたしました。

2001年「地球交響曲 第四番」

2004年「地球交響曲 第五番」

2007年「地球交響曲 第六番」

2010年「地球交響曲 第七番」

2011年の東日本大震災を経て

2013年に「地球交響曲 第八番」撮影開始

2015年「地球交響曲 第八番」を公開しました。

長きに渡り、ここまでどれだけ多くの皆様に支えていただいたかは言葉を尽くしても尽くし難く、心より感謝を申し上げます。

2017年8月、龍村は、自転車転倒で大腿骨骨折をし、皆様にご心配をおかけいたしました。お陰様で現在は回復しております。とはいえ、寄る年波、決して全盛期のようには気力体力が漲っているとは言い難いのですが、それでも第九番を望む多くの声があるならば、そのお役目に応えようとしております。

しかしながら、映画の完成までには新たな課題もあります。時代の変遷とともにデジタル化、ノンリニア化と進化する映像技術は、龍村の制作姿勢とは相反するところもありますが、どのように対応してゆくか、スタッフ一同、知恵を出し合い、全身全霊で支え乗り越える覚悟で「地球交響曲第九番」の制作に入ります。

地球交響曲集大成となる「第九番」に流れるテーマは、人間たちのシンフォニーです。ベートーヴェンの「第九」で歌われるシラーの詩のなかに「すべての世界の人々は兄弟になる。そういう優しい世界、素晴らしい世界が来る。戦争が起こって、人々と人々の心が、諍いのなかで苦しみのなかにも、それを神の力はいつの間にか優しく結び合わせる」という意味の部分があります。

「それはいつのまにか、
みんなの努力によって元に戻るのだよ。
だから我々はつねにひたむきに
生きるということを止めてはならない」

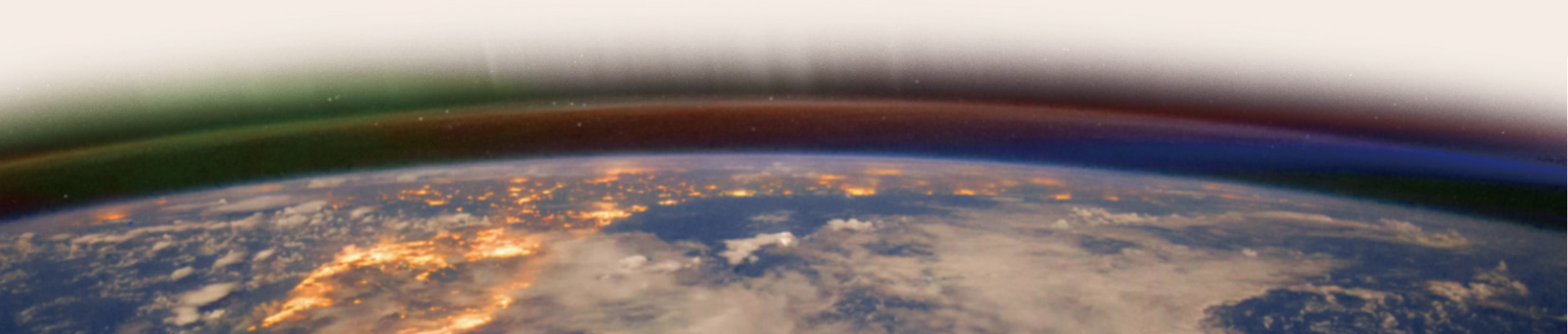
聴力を失いながらも作曲をし続け、ひたむきに生きたベートーヴェンの苦悩の果てに生まれたであろう「第九」の歓喜の歌は、今でも生きることへの励ましと勇気を与え続け、歌い継がれています。

奇しくも2019年令和元年は、ベートーヴェン生誕250周年にあたり、そしてガイア理論のジェームズ・ラブロック博士は100才を迎えられます。

ベートーヴェン・イヤーの幕明けとなる2019年12月25日。龍村仁事務所20周年記念事業として、サントリーホールにて、コバケンとその仲間たちオーケストラによる第九の演奏会を開きます。その「第九」が生まれていく過程を地球交響曲第9番に収めてまいります。

地球交響曲を共に奏でる魂の友の皆様と、今までの出演者の皆様にもお声をかけさせていただき、一堂に会することを夢見ております。

「第一番」公開から、27年の時を経て、ついに最終章となる「第九番」製作へどうぞお力添えをいただけますよう、心よりお願い申し上げます。





共に奏でるガイアシンフォニーNo.9

映画制作へ皆様のご協力をお願いします。

完成目標 2020年10月
公開目標 2021年 4月
映画制作費 9,000万円

寄付によるご協力.....

任意の額にてご協力をお願いいたします。

下記の郵便振替口座にお振り込み下さい。

郵便振替口座：口座番号00150-2-569721
加入者名：ガイアシンフォニー

ゆうちょ銀行口座から直接電信送金される際は、日中の連絡先(tel)をe-mailまたはfaxにてお知らせ下さい。

ご協力いただいた皆様のお名前とメッセージ(匿名可)を第九番ホームページに掲載させていただきます。

※掲載を希望されない場合は通信欄にご記入願います。また、メッセージは任意です。

ご寄付額に応じて、以下の特典があります。

○ 1万円以上のご寄付を戴いた方には、「地球交響曲 第九番 特製エコバック」を進呈いたします。

1. 4万円 12月25日サントリーホール「第九コンサート」優先席
および、懇親パーティーにご招待(人数に限りがございます)
2. 5万円 A. 地球交響曲DVD8巻セット進呈(お申しいただいたあとにお送りします)
3. 5万円 B. 地球交響曲 第九番が生まれるまでの記録のインターネット動画配信(映画公開後のお知らせとなります)
4. 10万円 地球交響曲 第九番作品エンドロールにお名前を掲載。
5. 30万円 地球交響曲 第九番作品エンドロールに「special thanks to」としてお名前を掲載
6. 45万円 上記1～3と5の特典
および、事前登録した1会場のみにて、第九番の上映ができます。
(この特典にお申し込みの場合は、後日改めて登録書をお送りします)

※特典は数に限りがあります。3の特典については、事前の予告なく内容が変更になる場合もあります。

スポンサー企業による協賛.....

協賛額および協賛内容は、別途打ち合わせにお伺いさせていただきます。

- 映画本編のエンドロールに協賛クレジット表記
- 映画パンフレットへの広告掲載
- サントリーホール「第九」コンサート特別協賛



龍村仁事務所
Jin Tatsumura Office

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-35-3-1104

e-mail: order@gaiasymphony.com tel: 03-5368-5480 (平日10:00~18:00) fax: 03-5368-5483

gaiasymphony.com
Jin Tatsumura's official site